

# コロナ禍がパーキンソン病患者に及ぼす影響の検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学大学院公衆衛生学研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2021年4月16日 ～ 2024年3月31日

〔研究課題〕 コロナ禍がパーキンソン病患者に及ぼす影響の検討：後ろ向きコホート研究

## 〔研究目的〕

本研究は康明会病院に2019年1月から2021年に1月の間に2回以上入院されたパーキンソン病の患者様を対象にコロナ禍においてどのような特性や要因を持っていた場合、機能維持が図れたのかを明らかにすることを目的といたします。

## 〔研究意義〕

パーキンソン病の患者は多様な運動症状、非運動症状を呈する進行性の神経変性疾患です。パーキンソン病の発症機序は明らかになっていませんが、中年以降に発症することが多く、高齢になるとともに、有病率も上昇することが知られています。適切なケアを続ければ発症後10年間は通常の生活が可能であり、その後も、治療を継続することで、個人差はありますが、地域での生活を継続できる例も多いといわれています。今回のコロナ禍では介護、高齢者支援において大きな影響を及ぼしており、サービス事業所の一時的な閉鎖や利用回数の減少、また高齢者自身の自発的な外出自粛などで、高齢者のフレイルが進んだといわれています。しかし高齢者に多いパーキンソン病患者に対してどのような支援が行われたか、あるいは滞ったかをまとめた調査はまだ行われていません。パーキンソン病患者は一般の高齢者と違い、リハビリテーションやサービスを機能の維持・悪化防止目的で利用することがあります。このため、これらの減少がすぐに状態悪化の原因になると考えられます。今回、パーキンソン病患者も外出自粛を求められ、中には身体機能が大きく低下した例も見受けられます。これらの要因を明らかにすることで、今後パーキンソン病患者へどのような重点的な支援をすべきか、検討していきたいと考えています。

## 〔対象・研究方法〕

康明会病院に①2019年1月15日-2020年1月15日、②2020年1月16日-2021年1月16日の期間に2回以上入院したパーキンソン病患者様。この期間について①コロナ禍前に入院、②コロナ禍後に入院の2つの期間にそれぞれ2回以上入院している患者様が対象となっているため、このように期間を分けています。期間の分け方としては日本で新型コロナウイルス感染が確認された2020年1月16日を設定日として、①それより前1年をコロナ禍前、②それより後1年をコロナ禍1年として設定しています。

康明会病院付属デイケアに2019年1月から2021年1月まで継続して通っているパーキンソン病患者様。

データ収集項目は、性別、年齢、個人様の属性に関するもの、介護度、重症度など病状に関するもの、また介護サービス利用状況、日常生活の評価スケールなどとなります。

〔研究機関名〕 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科

〔個人情報取り扱い〕

個人情報はすべて暗号化し、個人の特定ができないようにします。また病院からデータを持ち出す際にはパスワード管理されたUSBを用いて行います。情報の保管は帝京大学公衆衛生学研究科内の鍵のかかるキャビネット内とします。データは研究の最終の公表について報告された日から10年を経過した期間まで公衆衛生学研究課内の鍵のかかるキャビネットに保存しその後消去します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 教授 大脇和浩

研究分担者： 大学院生 今井貴子

所属： 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 sph-timai@med.teikyo-u.ac.jp

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 46210 ]